

長寿科学研究開発事業
令和 7 年度中間評価について

令和 7 年 11 月
国立研究開発法人日本医療研究開発機構
データ利活用・ライフコース研究開発事業部
ライフコース研究開発課

中間評価は、研究開発課題について情勢の変化や研究開発の進捗状況等を把握し、これを基に適切な予算配分や研究開発計画の見直しの要否の確認等を行うことにより、研究開発運営の改善及び機構の支援体制の改善に資することを目的として実施します。

長寿科学研究開発事業では、5 年間の研究開発課題に対し、本事業における中間評価の評価項目に沿って、評価委員会において、書面・ヒアリングによる中間評価を実施しました。

事業について

本研究事業は、高齢者が老いや高齢者特有の疾患または病態等に罹患しながらも、その人らしく生活を送るために必要な医療や適切な介護の提供に資する研究開発を推進しています。今後、医療や介護人材の確保が更に難しくなり労働力としての制約が強まる中で、限られた人材・資源によって効率的かつ質が担保された医療・介護を提供して高齢者の生活を支援するため、科学的根拠に裏付けられた技術開発や費用対効果を踏まえた新たな提供体制の提案等が必要とされています。

老年医学領域における研究を基礎として高齢者の生活を包括的に支援する基盤整備を推進する観点から研究を進めています。

評価対象課題（1 課題）

| No | 研究開発課題名 | 研究開発 代表者 | 所属機関 | 役職 |
|------------------------------------------------------|--------------------------------|-------------|------|----|
| （公募課題名）高齢者における要介護状態の悪化メカニズムおよび介入効果の解明を目的とする前向きコホート研究 | | | | |
| 1 | 要介護高齢者のケアを最適化する因子を解明する 研究開発 | 山本 浩一 | 大阪大学 | 教授 |

評価内容

本課題は、介護度に応じた登録者数が適切なバランスとなるように想定したコホートの構築が順調に進捗し、既に様々な探索的解析を行うことができていたことが評価されました。研究開発を継続し、研究期間の後半において、動画像解析から得られる知見の予後予測への応用と科学的介護情報システム（LIFE）収集項目との関連性、バイオマーカーの検証を含めて今後の進展が期待されます。

評価のスケジュール

書面審査実施期間： 令和7年8月29日（金）～令和7年9月22日（月）

ヒアリング審査： 令和7年10月1日（水）

課題評価委員 名簿

| 氏名 | 所属・役職 等 |
|--------|--------------------------------------------|
| 石井 恭正 | 東海大学医学部医学科基礎医学系分子生命科学・准教授 |
| 磯部 紀子 | 九州大学大学院医学研究院 神経内科学・教授 |
| 大庭 幸治 | 東京大学大学院情報学環/学際情報学府・准教授 |
| 小川 純人 | 東京大学大学院医学系研究科老年病学・教授 |
| 小川 敬之 | 京都橘大学健康科学部作業療法学科・教授 |
| 片山 陽子 | 香川県立保健医療大学・副学長 |
| 小久保 学 | 国立長寿医療研究センター医療安全推進部・部長 |
| 後藤 温 | 横浜市立大学学術院医学群データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻・教授 |
| 田高 悦子 | 北海道大学大学院保健科学研究院創成看護学分野・教授 |
| 永井 久美子 | 杏林大学医学部高齢医学教室・実験助手 |
| ○中山 健夫 | 京都大学大学院医学研究科・教授 |
| ◎渡邊 慎一 | 横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター・センター長補佐 |

※◎は当委員会委員長、○は当委員会副委員長

PS・PO

| | 氏名 | 所属・役職 等 |
|----|--------|----------------------------------|
| PS | 飯島 節 | 筑波大学 名誉教授 介護老人保健施設ミレニアム桜台 施設長 |
| PO | 数井 裕光 | 高知大学 医学部神経精神科学講座 教授 |
| PO | 鈴木 みずえ | 浜松医科大学 医学部看護学科 特命研究教授 |

評価項目

- ①研究開発進捗状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

以上